# 保安確保、労働環境改善を

## 出炭・人員は横ばい、やや減

### ―上期中央生産会議続報―

## 中央生産会議資料（続報）

前号で既報のように、六十一年度上期の中央生産会議が開かれましたが、組合側からの質問事項と会社側の回答（要約）は次のとおりです。この回答に対して、保安確保と労働環境改善の立場から会社側の対応をただしました。

なお、各鉱所の生産会議が四月中にそれぞれ開かれます。

一、三池炭鉱の長期計画と人員計画について。

※　長計については公式に説明できない。当面は出炭量年間四五〇万トン体制で、人員も横ばいでいきたい。

二、夏期温度対策について。

※　昨年の夏期に比べて特に地熱の高い箇所はなく、設備は昨年同様で横ばい。冷凍水は四山九・六トン、三川一・四トン、冷凍機は六六冷凍トンを四山四台、三川一台、有明四台を計画し、有明の風量は増強したい。

三、山ハネと吊天対策について。

※　現在実施している対策を今後も続行し、超高圧水ボーリングによる新しい対策もテストする。吊天対策についてはすでに別途提示した。

四、海上投棄による硬捨ての実績について。

※　下期は三六七、六六七トン。年間計で六九一、一二三トン。

五、海上ボーリングの実績と今後の計画について。

※　年間でネド（新エネルギー開発機構）が一本で一、一五九・六メートル。鉱業所が四本で二、五三八メートル。六十一年度はネドが一本で一、二〇〇メートル。鉱業所が三本で二、〇三〇メートルを計画している。

六、有明鉱採掘に伴う海底の硬埋め戻しの実績と今後の計画について。

※　六十年度は、福岡県側七五万リューベ、佐賀県側二〇万リューベ。六十一年度もほぼ同量を計画している。

七、有明鉱災害による遺族の採用実績について。

※　四月一日現在で三二人（妻六、子二二、他四。他社へのあっせん四を含む）。さらに四月に一人、十月に一人を予定。今後の希望者は学業などの関係で一〇人ぐらいを予定している。

八、六十年度の政策助成金の実績について。

※　安定補給金九億円、坑道維持費二五億円、保安対策費八億円、計四二億円。

九、銘柄別炭価について。

※　塊炭一八、一〇〇円、原料炭一九、五〇〇円、粉炭一五、九〇〇円、微粉炭五、〇〇〇円。

十、水道一元化の現状と見通しについて。

※　昨年末に両県、両市、三井の五者で基本的に合意し、厚生省の認可もおりた。現在具体案を市側で立案中であり、成案を得て詰めていく。

十一、三井コークスの廃止に伴う人員受け入れについて。

※　昨年十月に労使交渉がまとまり申し入れがあった。坑内適格者を一二人受け入れたい。

### S60年下期掘進実績

| | 予算 | 実績 | 60年上期予算 |
|---|---|---|---|
| 四山 | 9,862 | 11,152.3 | 11,500 |
| 三川 | 10,434 | 11,029.2 | 10,137 |
| 有明 | 11,169 | 10,669.7 | 10,050 |
| 計 | 31,465 | 32,851.2 | 31,687 |

拡大、覆工を含む（単位：メートル）

### S60年下期出炭実績

| | 予算 | 実績 | 能率 | 遂行率 |
|---|---|---|---|---|
| 四山 | 875,000 | 943,864 | 144.5 | 107.9 |
| 三川 | 715,000 | 751,258 | 115.9 | 105.8 |
| 有明 | 745,000 | 752,207 | 134.2 | 101.1 |
| 計 | 2,335,000 | 2,447,329 | 119.8 | 104.8 |

（単位：トン・%）

### S61年上期人員計画

（単位：人）

| | 60年下期末 | 61年上期末 | 増減 | 内訳（61年上期末） 採炭 | 掘進 | 坑内 | 坑外 | 採用 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 四山 | 1,143 | 1,124 | △19 | 165 | 144 | 1,045 | 79 | 13 |
| 三川 | 1,158 | 1,153 | △5 | 169 | 111 | 1,019 | 134 | 38 |
| 有明 | 982 | 984 | 2 | 120 | 117 | 923 | 61 | 21 |
| 本所 | 305 | 309 | 4 | 0 | 0 | 2 | 307 | 13 |
| 計 | 3,588 | 3,570 | △18 | 454 | 372 | 2,987 | 581 | 85 |

### S61年上期出炭計画

| | 予算 | 能率 |
|---|---|---|
| 四山 | 820,000 | 127.8 |
| 三川 | 700,000 | 108.4 |
| 有明 | 730,000 | 131.8 |
| 計 | 2,250,000 | 111.3 |

（単位：トン・%）

## 春闘交渉延期に思う

職場の声　10分会　宮脇好光

今までにかつてなかった、春闘交渉延期の申し入れが石炭協会からあり、炭労もこれを認めて、賃金交渉は八月以降に持ち越されることになった。経過はまだ聞いていないが、分会での討議では全員が反対意見だった。

昨年ごろから石炭危機論が強まり、「石炭より石油が安い」「海外炭に比べて価格差がありすぎる」「炭鉱は災害が多い」など石炭のユーザーである電力や鉄鋼経営者は国内炭不要論まで持ち出している。

あの〝三池闘争〟が始まる前の状況とよく似ている。当時も「石炭はもう古い」「これからは、石油の時代だ」と、いわゆる〝エネルギー革命論〟が宣伝され、政府と石炭資本家は石炭危機を口実にして炭鉱労働者に大がかりな合理化を押しつけ、三池を突破口にして次つぎに全国の炭鉱をつぶしていった。

〝三池闘争〟が、たんに首切り合理化に反対するたたかいだけではなく、まさに石炭を守るたたかいであったことを事実で示したのである。

いまアメリカは、貿易摩擦を理由に大量の農産物と石炭を日本に輸入することを要求しており、中曽根自民党内閣と独占資本はこれを受け入れ、自前の食糧や石炭を投げ捨ててそのすべてを外国に依存し、日本の国までつぶしてしまうという、とんでもないことをやろうとしている。

このような中で石炭資本は、石炭危機を強調して炭鉱労働者をおどし、合理化への協力を求めて「がまん」や「犠牲」を押しつけている。

今回の春闘交渉延期もこの皮切りで「一歩引けば、また一歩」ときりがなく、炭鉱労働者の労働条件はさらに切り下げられ、また災害を生み出して生命まで奪われることになりかねない。

炭鉱労働者の生命と暮らしを守るために、団結を強め、国の石炭政策を変えさせるために、広範な闘いに立ち上がることを強く求められているのではないだろうか。

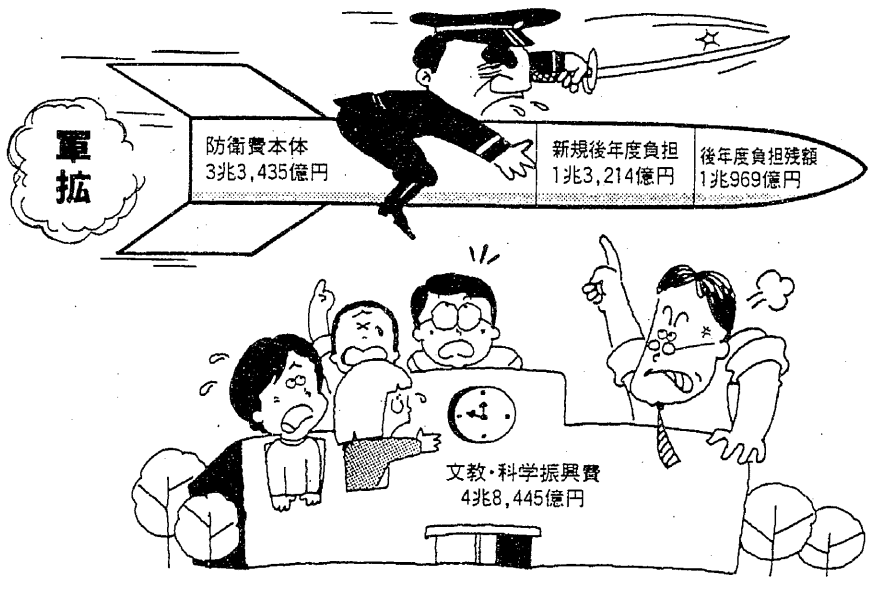
# 参院選で中曽根自民党政治に痛打を

## 中曽根政治を総決算する ①

### 軍拡

## 見せかけより大きい軍事費

文教予算上回る軍事費（1986年度予算）




軍縮・平和は、中曽根首相もいいます。しかし、実際にやっているのは軍拡一筋。それは、「力の均衡こそが平和の保障」という考え方だからです。

日本の軍事費は、実際より小さい見せかけになっています。一九八六年度予算で軍事費は三兆三千四百三十五億円ですが、これは他の国家公務員と連動させて人件費の伸びをゼロと見積もり、円高で安くなったはずの対米武器代金支払い額もけずらず、八五年度の五倍にもなっている基地所在地市町村交付金二百五十二億円は自治省予算とされているなどからです。

特に、「後年度負担」といわれるローンで買いこんだ武器の費用は大きく、八六年度の新規分だけで一兆三千二百十四億円となり、過去のローン残高一兆九百六十九億円と合わせると二兆四千百八十三億円にもなっています。軍事費の現金支出ローン残額を合わせると、五兆七千六百億円にもなり、文教費を軽く一兆円も上回ってしまいます。（連合）

### 七つの間違い答え

ヘリコプターの足、アドバルーン、鳩、宣伝カーのライト、アカハタ、右の子どもの足、おかあさんのスカートのもよう。